

第10回CUD勉強会「色弱のデザイナーが語る色覚と色彩の世界」（講師：栗田正樹氏）
アンケート集計報告

場所：なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごや
実施日：2019年2月24日（日）13：00～15：30
主催：NPO人にやさしい色づかいをすすめる会
参加人数：45人 アンケート回収：37人（回収率 82.2%）

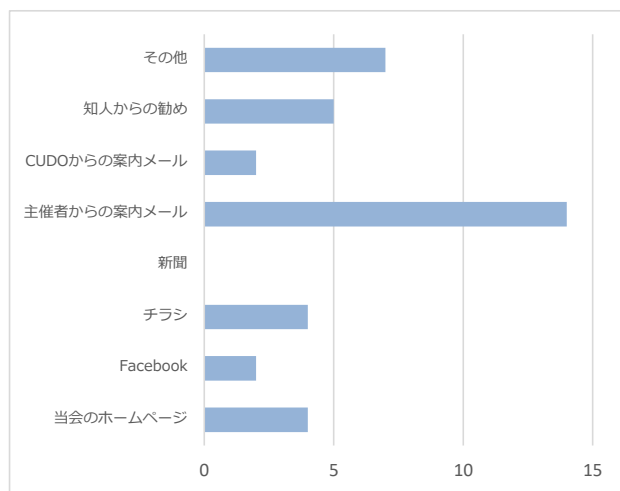
※ 2019/02/28 集計報告作成

Q1. この勉強会を何によって知りましたか？あてはまるものが複数ある場合は、参加に直接結びついたものをひとつ選んでチェック☑をしてください。

		Count	Rate
1	当会のホームページ	4	8.9
2	Facebook	2	4.4
3	チラシ	4	8.9
4	新聞	0	0.0
5	主催者からの案内メール	14	31.1
6	CUDOからの案内メール	2	4.4
7	知人からの勧め	5	11.1
8	その他	7	15.6
	合計(回答数)	38	

▼「その他」の内容

- ・メルマガ
- ・上司からの勧め
- ・大学の講演



Q2. 1でチラシにチェックをされた方に伺います。チラシの入手先はどこですか？よろしければご記入ください。

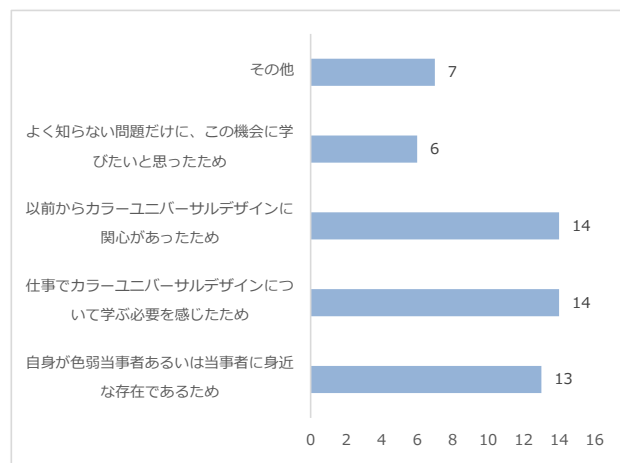
- ・人にやさしい色づかいをすすめる会でいただきました。
 - ・勤務先
 - ・大学で先生からいただきました。
- (※個人名等が含まれる回答はここに掲載しておりません)

Q3. 勉強会に参加された動機は何ですか？あてはまるものにチェック☑をしてください（複数選択可）。

		Count	Rate
1	自身が色弱当事者あるいは当事者に身近な存在であるため	13	
2	仕事でカラーユニバーサルデザインについて学ぶ必要を感じたため	14	
3	以前からカラーユニバーサルデザインに関心があったため	14	
4	よく知らない問題だけに、この機会に学びたいと思ったため	6	
5	その他	7	
	合計(回答数)	54	

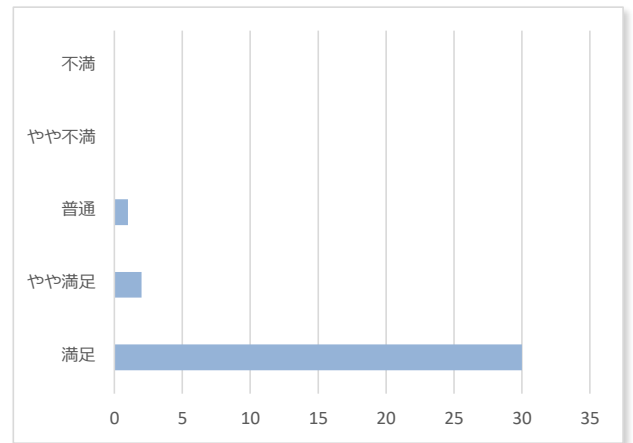
▼「その他」の内容

- ・HCDの考え(企画する上で)を学んでいく中で、情報デザイン（CUDも含む）で学びたかったから。
- ・自分の職業に必要なことだと思ったので。
- ・色弱に対してマイナスイメージがあり、栗田先生の案内のちらしで、とても素敵な色の絵があり、どのように描いたのか知りたかった。興味がわいたから。
- ・自分が光過敏でデザインをやりながら黒、濃紺、濃緑を見える明るさで絵を書いたりできないことがあったので(全く関係はないのですが)。
- ・デザイナーでありながら当事者であることを公表している栗田氏の語る内容に興味があったため。
- ・栗田氏の著書を読み、本人の話をナマで聴けることを以前から望んでいたから。



Q.4 講演会の内容はいかがでしたか？あてはまるものにチェック☑をしてください。

		Count	Rate
1	満足	30	66.7
2	やや満足	2	4.4
3	普通	1	2.2
4	やや不満	0	0.0
5	不満	0	0.0
	合計(回答数)	33	



アンケート自由記述

Q5. 本日の CUD 勉強会で特に印象に残ったことやご感想、また当会へのご意見・ご要望などを自由にお書きください。

- ・ライトを当てて色の見え方を見せるやり方は面白かったです。
- ・栗田さんの話は楽しくてテンポも良くわかりやすかったです。息子が色弱ですが、本人にこの講演を聞かせたかったと思いました。ありがとうございました。
- ・大変、参考になる貴重なお話を聞かせて頂きありがとうございました。色弱でありデザイナーでもあるということで、どの様なお仕事ぶりかわからなかったのですが、今は PC のシミュレーターなどでいろいろと可能な事がわかり、大変安心しました。ありがとうございました。
- ・ゴッホの絵の見え方が違うことに初めて気づきました。
- ・普段主にメンタルヘルスの分野でソーシャルワーカーをしています。CUD とメンタルヘルスの共通項として、当事者を主体とした課題への対応が大切だと感じました。メンタルヘルスで言う独自の考え方、価値観を持った方が少なくないですが、当事者が社会を変える担い手になる、そこに支持者、家族などがサポーターとして活動を広げる。それこそが当事者が生活しやすい社会に繋がるのではないかと感じました。マイノリティであることはそれだけで価値があり、多数と言われる方たちがそれを活かす。大変興味深く聴かせて頂きました。アプリも使ってみます！ありがとうございました。
- ・とても参考になるお話で、わかりやすく楽しい講演でした。CUD 活動を始めてから多様性を意識し、よい価値観をもつようになり、色弱であることを感謝するようになったとのお話に、色彩心理の多様性を意識しながら活動している私にとって深く共感もてました。改めて、多様性とは世界を広げることだと実感しました。ゴッホの絵のライティング比較、驚きの光景でした。
- ・勉強会を通じて毎回色に対する意識の考え方に奥の深さを感じると同時に、人間として色の関心度を高められます。ありがとうございます。
- ・今後の HCD&情報のデザインを活用（企画）して行く中で、意識して配慮しながら全体を考えていきたいと思います。また頭の中でイメージして設計されていることを学ばせていただいた。今日はありがとうございました。
- ・とても面白く終始興味深く聴講させて頂きました。客観的だけれど、とてもポジティブなお話が多かったことが印象的でした。
- ・人類の生き残りのための多様性 → 支え合い
- ・先生の作成を色のシミュレーターを通して見てもキレイで、色の可能性を感じました。
- ・多くの生徒と過ごすことを考えると、ユニバーサルデザインについてもっと多くのことを学ばなければと思いました。カラーユニバーサルについてということで勉強に来たつもりでしたが、人の多様性ということも学ぶ機会になり、参加させていただいてとても良かったと感じています。
- ・検査をしないと分からないということで病院に行くというのはハードルが高いと思います。うちの子世代は自覚のない子が多いと思います。知らない方が良いのか、調べてよかったのか考えさせられる時がありました。今は知ってよかったと思いますが、現時点においても義務教育内での判断というのではないのでしょうか？うちのように病院にいったって調べるというのはハードルが高いと思います。
- ・色弱はマイナスなことではなく特性で、集団で生きる上で必要な存在であることを学びました。本日は貴重なお時間、お話をありがとうございました。
- ・「正しい色とは」と言う認識はなかったです。C 型が標準（にしていることが）の考え方が、間違っていることも、今日改めて勉強になりました。人類が生き残るための知恵、手段の 1 つであり、これこそが多様性である。個性として捉えることが、当たり前になることが大切であることもおしえて頂きました。大変勉強になりました。大変貴重なご講座でした。どうもありがとうございました。
- ・具体的な事例を混じえて、とても分かりやすい講演でした。これからの活動として、一般の人に CUD を広めるためのヒントとして、女性の 10 人に 1 人が保因者である。← これは女性はビックリする、色覚に関わらず、多様性がとても重要、このあたりを勉強しながら、活用しながら、CUD も広められるといいと思いました。
- ・P 型、D 型を含む「色弱」に関して、改めて基礎から学ぶ良い機会となりました。文章のある資料ではなく、目に訴える「絵」やデザインによる勉強会でしたので、時間を忘れて集中してしまいました。ゴッホの絵、感激しました！ありがとうございました。

- ・豊富な経験からの話は説得力があった。
- ・P型、D型の方の状態がわかる体験グッズを使えてよかった。講演会の内容も楽しくて、見え方の違いもよくわかった。
- ・当事者、それもデザイナーとして活動をされている方の話を聞く機会は中々ないので、とてもためになりました。また、CUDについての資料も多く見ることができ、今後の学習の参考にしていきたいと思いました。
- ・多様性が人間や種の生存に繋がるという話が特に印象に残っています。
- ・今回参加して色弱へのイメージが変わった。すごく本人の捉え方や生き方によって長所やプラスの面が多いことも気づくことができて良かった。日頃保健師として働いているため、色弱に悩む母などいれば、今日の体験を生かしたいと感じた。栗田先生の生き方に感銘を受けた。全ての考え方、偏見をなくすことにつながると感じたので、栗田先生の話进行いんなところてひろげてほしいと感じた。
- ・先生のお話がとてもわかりやすく楽しかったです。多くの方に知っていただきたいことだと強く思いました。
- ・いろいろPOP描きしたものの写真をメガネを通して見てみたのですが、色が2色くらいにしか見えなかったことが残念に感じたのですが、先生が「個性」と言って下さったことに、少し自信がまた持てました。自身も自閉症スペクトラム（アスペルガー）があるのですが、それも「個性」、今日頂いた資料をもとにまた見やすく楽しいPOPデザインができたらいいなあと思いました。本日はとても楽しかったです。本当にありがとうございました。
- ・多数派、少数派、多様性と言葉が変わったことを初めて知りました。CUDに配慮した教科書を作っていますが、栗田先生のお話を聞いてあらためて知ることも多く大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・光の具合で、色の見え方が違うことは体感していたが、積極的な矯正ツールとして使えそうに思えた。CUDに配慮した色づかい（札幌市の資料）は、予想以上に地味に感じたのは発見だった。間違えない色づかいも重要だが、華も欲しい（失ってはならない）と思う。
- ・ゴッホが色弱だったのを初めて知りました。色弱との付き合い方の参考になりました。
- ・色弱の方とお話できる機会がなかったので、とても参考になりました。栗田さんのデザイナーの仕事をしていく上でのスタンス、色弱の方の生き方など。
- ・講師自身が色弱者であることに加え、デザインやアートの実践者であることで講演内容に強い説得力を感じた。また講演内容以前に、パワーポイントを使った説明も、単純な文字の羅列ではなく、ご自身の手によるイラストを効果的に配置し、伝えること、表現することを常に意識した、私にとってはこれまでの講師の中で一番腑に落ちる分かりやすい講演だった。文字の多い画面もご自身の話すペースや間合いの取り方の工夫で、可読性を損なうことなく情報を書き出していたことに感じ入った。圧巻は、ゴッホの作品が印刷されたカードを使った「現物版色のシミュレーター」の実演。この実演を見るまで、私は「ゴッホ色弱説」には懐疑的であった。しかしこの目で色変換された絵を見て、考え方が変わった。特にゴーギャンの作品との比較から、ゴッホの絵は色弱シミュレートされても陰影の階調に一切の破綻がなく、確かな写実性を持っていた。これまでアバンギャルド的なアート性にばかり目が向いていたが、彼の描いてきた絵は、いわゆるリアリズム絵画と位置付けてもいいのではないかと持ったほどである。
- ・色弱は色覚の多様性の中の1つであると理解しているが、改めて色弱者自らそう感じて語るのを聴き、ひじょうに新鮮な感覚です。また色弱のデザイナーとしての経験や、仕事の工夫のお話、色弱者のほうが色をよく見分けられる部分があり、よい事もあるなどの説明は、参加された当事者やそのご家族の不安感が払拭されるような印象でした。このような講演会は今後も多く開催されると良いと思う。
- ・色弱者は、「本人の自覚がないのにアクセスしにくい」ということ。この表現は、色弱者の問題を的確に表現していると感じた。
- ・CUDの手法を、参加者に質問しながら説明された。配慮されていない円グラフについて、CUDにする方法4つを問うもの。色を変える、境界線を入れる、模様をつける、文字を入れること。簡単明瞭で、覚えやすく記憶に残った。
- ・当事者の栗田講師が、カラフルな絵を描くことができることに驚いた。自分には描けないと思った。
- ・ゴッホの絵を、バリエントールのレンズをつけたライトで見ると、バリエントールをかけて見るのと同じ効果があるのでしょうか。今更ながら、私たち当事者が見ている色調が、ゴッホが見ていた色調と同じかも知れないと思いました。
- ・堅苦しさを排除した親しみやすく時に笑いを誘う巧みな言葉、語るスピードに合わせた文字情報の表示、短い動画の数々、時々クイズを挿入する等、聴衆を飽きさせない工夫満載で、講演のスタイルからも多くを学ぶことができた。
- ・講演内容で特に印象に残ったのは、色弱であることを周囲に伝え協力を求めるならば、色弱者はデザイナーとして現場で活躍できるというお話。デザイン学科で自分が色弱だからとネガティブ思考に陥っている学生に伝えてあげたい。また、色覚の問題に限らず「多様性」がいかに重要であるかが様々な事例によって繰り返し強調されており、そのメッセージが心に刻まれた。
- ・多くの知識も得られたが、味わいのある緩い雰囲気イラストと巧みな語りによって、とても温かな気持ちになった。ありがとうございます。